

# 廃アルミで水素発電

## 高岡の会社 千葉のホテルで事業

水素製造装置メーカーのアルハイテック（富山県高岡市）は、千葉県木更津市の「ホテル三日月」で、廃アルミを使った水素火力発電

電事業に乗り出す。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）をほとんど出さずに発電が可能といい、早ければ、2026年春の稼働を目指す。26日にホテルでアルハイテックの水木伸明社長らが発表した。家庭ごみの錠剤のシートやカップめんのかたまり、工場から出るアルミくずといった廃アルミを原料に、同社独自の水素製造装置でまず水素をつくり、既存の水素火力発電設備で水素の燃焼反応を利用して発電する。水素の製造過程ではCO<sub>2</sub>が出ないほか、発電時にもCO<sub>2</sub>はほぼ発生しないとしている。

ホテルの敷地内に水素製造装置と、水素火力発電設備を設置。同社スタッフが常駐して運転する。年間約520トンの廃アルミを使って発電し、ホテルの電力使用量の半分近くを賄う。廃アルミは、地元の木更津市が分別回収したアルミごみを使用するほか、関東の非鉄金属のリサイクル問屋からアルミくずを仕入れる。問屋からアルミくずを安

廃アルミの水素火力発電事業について、千葉県木更津市で説明する水木伸明社長＝アルハイテック提供

く仕入れるとともに、水素の製造過程で副産物として発生する水酸化アルミニウムや、アルミごみから取り出したバルブを地域の工場に工業原料として販売することで、将来的に維持管理コストを抑える。

アルハイテックによると、廃アルミによる水素発電は、太陽光発電と比べ材料さえあれば、天候に関係なく安定的に発電できる利点がある。同社は3年間で14件の事業を予定。中でも富山県内のアルミ関連会社での発電事業は、最大の課題である廃アルミを調達しやすく、自社内でリサイクルできる点で効率が良いという。

（松村裕子）